

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	小児多機能型事業所KODOMOTO		
○保護者評価実施期間	R6年 7月 10日		～ R6年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	R6年 7月 10日		～ R6年 8月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	R6年 7月 10日		～ R6年 9月 30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 10月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士、心理師、言語聴覚士、看護師など多様な専門性を持ったスタッフが訪問に回れること。	利用の相談を受けた際のニーズから、より適当なスタッフを担当として配置すること。	事業所内でのケースカンファレンスを定期的に行うことにより、多角的な視点での支援を提供することができると思われる。
2	家族支援として直接自宅に伺い、保護者に報告を行っていること。また、自宅に伺っていることから、家庭での困り感が聞かれた際に、実際の場面で直接観察することができること。	極力自宅に伺い保護者とお話する機会を設けているが、仕事が忙しい等の事情がある場合は電話での連絡を行う、といった場面や事情に合わせた対応をとっていること。	現在は直接会うのが難しい場合は電話での対応のみになっているが、ZOOM等を用いたオンラインでの対応も整備していきたい。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校や園以外で対象児への個別の支援(例えば、SSTなど)が求められる場合、対応が難しいこと。	(居宅型児童発達支援は行っているが) 保育所等訪問支援のみを行っているため。	対象児が通っている児童発達支援・放課後等デイサービス事業所との連携強化を図っていく。また、障害児通所支援事業所に通っていない児に対しては、相談支援専門員と話し合い、保護者に利用を進めてもらう等の対応を行っていく。
2			
3			